



佐野短期大学学報

か た く り



ACCREDITED
2005

本学は平成17年度助
短期大学基準協会によ
る第三者評価の結果、
適格と認定されました。

発行/佐野短期大学

栃木県佐野市高萩町1297 電話 (0283) 21-1200

入学特集号



祝入学



(撮影 森田拓男)

大学の主な行事

(春期)

- 4月3日 入学式
- 5日 オリエンテーション (7日迄)
- 8日 1年生学外合宿研修 (9日迄)
- 12日 春期授業開始
- 5月1日 創立記念日
- 2日 介護2年居宅訪問実習開始 (2日間適宜実施)
- 31日 1年履修調整期間 (6月5日迄)
- 6月7日 児童2年教育実習 (25日迄)
- 7月21日 ボランティアアデイ
- 27日 春期定期試験 (8月2日迄)
- 8月3日 夏期休業開始 (9月26日迄)
- 16日 社会2年現場実習 (9月3日迄)
- 児童2年保育実習Ⅱ・Ⅲ (30日迄)
- 29日 介護2年施設実習Ⅱ (9月25日迄)
- 9月6日 栄養2年学外実習Ⅰ・Ⅱ (17日迄)
- 9日 児童2年保育実習Ⅰ (25日迄)
- 13日 海外研修Ⅰ (19日迄)
- 24日 秋期オリエンテーション
- 26日 夏期休業終了

新入生に贈るメッセージ



決意を新たに

理事長 浦田 奨

桜花爛漫の今日の佳日に、平成 22 年度佐野短期大学入学式を挙げるにあたり、公私共にご多様の中、ご来賓各位多数のご臨席を賜り衷心より御礼申しあげます。新入生の皆さんご入学まことにおめでとうございます。私たち学園関係者一同は、皆さんのご入学を心からお祝い申し上げます。

さて、現代社会は、政治の混迷、長引く景気の低迷、地球温暖化、環境ホルモン問題など、どれをとっても解決が困難と思われる問題を数多く抱え、社会全体が閉塞状況にあります。一方、インターネットに代表されるネットワーク型社会は、世界を確実に狭め、時空を超えたボーダーレス時代を迎えています。私たちはどういう状況の中にあっても、平和で活力のある社会をつくらなければなりません。これは私たち人類の永遠のテーマではないかと思えます。21 世紀は「知の時代」「人的資本の時代」とも言われていますが、最も重要なのは「教育」です。そうした時代の変化もあって、近年教育に対する国民の期待や要望は日増しに高まりを見せています。国も教育改革の名のもとに、大学の法人化や特色化、個性化、ゆとり教育など積極的に改革を進めてまいりました。しかし、不安定な政治状況もあって、教育に対する考えや政策は時の政治によって動かされ、中々安定しません。日本の将来をどうするのか、未来を託す若者をどう育てて行かなければならないか、全くその方向性が見えて来ません。私は、こうした状態が長く続けば、やがて日本の国は国際社会から取り残されてしまうのではないかと、大変心配しています。私たち国民は今こそ、日本の未来を真剣に考えなければ成らない時が来ているのではないのでしょうか。不透明な時代だからこそ、活力のある社会を作り出す使命が皆さんにも求められています。未来を切り開き、未来を創造して行くのは皆さんの双肩にかかっているはずで

す。佐野短期大学は、平成 2 年の開学以来、「想う人」「考える人」「行う人」を育てることを教育目標として、どんな時代にあっても、時代の要請に応える高度な実学中心の即戦力となる人材の育成に努めてまいりました。卒業生の多くは社会の中堅として地域社会で活躍し、各方面から大変高い評価をいただいております。さらに佐野短期大学では、本年 4 月より経営情報科・英米語学科・社会福祉学科を統合し、「総合キャリア教育学科」を開設いたしました。この学科の狙いは、入学後自分の興味や適性に応じて科目履修が選択できること、また、幅広い教養と高い専門性を身に付けさせることで、自立心に富み、創造的でバランス感覚に秀でた、実社会で活躍できる人材の育成を目指したものです。皆さんはその第 1 期生となります。未来を切り開き、未来を造り出そうと言う、新入生の皆さんのご健闘を心からお祈りいたします。最後になりますが、曹洞宗を開いた道元禅師の教えに「花、紅にして美しくなりといえども、ひとり開くにあらず、春風きたりて初めて開くなり」と言う言葉があります。つまり、人間が人生の花を開かせるのは、自らの努力とともに、それを支え、励ましてくれる大勢の人の助けがあること忘れては成らないと言う意味です。皆さんは、今日まで育てて下さいましたご家族の皆様や、佐野短期大学への進学をお世話下さいました高校の先生方を始め多くの皆様の支えに感謝の心を持って、自分の夢の実現に向かって勉学に励まれることを期待いたします。



地域社会に

望まれる人たれ

学園長 池田 健次

春爛漫、若葉青葉の萌えるような息吹を感じる今日の佳き日に、平成 22 年度佐野短期大学の入学式を執り行い、ただいま 317 名の新入生の皆さんが入学を許可されました。皆さんの御入学を心から歓迎しおめでとうと申し上げます。そしてご父母の皆さま方に対しましても謹んでお祝いを申し上げます。

本学は日本大学の基本理念を基調に、教育目標には「想う人・考える人・行う人」の理念を掲げ、地域社会との融和と協調を第 1 義に考えています。学生の皆さんには本学の教育理念を理解されて、人格を陶冶し、各人が希望する専門分野を精一杯学び取って、地域社会に望まれる人となり、21 世紀の担い手として育ててほしいのです。社会は日進月歩の早いテンポで科学技術が進化し、著しく利便性が先行しています。ややもするとその利便性だけに依存して、受動的な姿勢に走り、能動的な姿勢を見失ってしまうことのないように、肝に銘じて欲しいのです。そのためには常に探究心を持つことです。探究心は人間に与えられたもっとも高度な能力の一つです。人には誰もより前進しようとする気持ちがあります。想像が創造を生むといえます。各人の目標を具現化しようとする努力が探究心となって働き、それがより高度な社会を創造する原動力となるのです。自らの将来を見据え、人生の基盤となる価値観を創造することが大切です。

さて、一昨年のアメリカ発のリーマンショックの影響により、景気の低迷が続き不安定な世情が続いています。大学の卒業生の就職にも最悪の影響を及ぼしているという中で、本学の卒業生の就職率は毎年 100 パーセントを達成してきました。昨年までの本学は英文・経営情報・福祉の 3 学科 4 専攻で運営してきましたが、即戦力となって社会に貢献出来る様な、幅の広い人材を育成するために、時代のニーズに即応した生きた教育を実践しようとの思いから、総合キャリア教育学科一学科に統合しスタートすることに致しました。

新入生の皆さんは、佐野短期大学が今年で創立 20 周年という意義ある年に入学されました。本日から本学園での新しい学生生活が始まります。2 年間はあっという間に過ぎ去ります。繰り返す事の出来ない大切な 2 年間です。社会に羽ばたく前のこの 2 年間に、出来る限り多くの仲間と友情を育み、学びや体験を通して感動を味わい、その全てが栄養となって自らを育て得るよう努めていってほしいと思います。

新入生に贈るメッセージ



新学科の第 1 期生として

学 長 ^{こしみず} ^{まさる} 興水 優

新入学のみなさん、ご入学おめでとうございます。佐野短期大学は教職員一同、みなさんのご入学を心から歓迎いたします。

本年、すなわち平成 22 年は、平成 2 年に開設された本学が、開学 20 周年を迎え、またこれまでの 3 学科 4 専攻を、「総合キャリア教育学科」に統合し、スタートを切る年でもあります。新入学のみなさんはその「総合キャリア教育学科」の第 1 期生です。新学科では、専攻領域を 11 の専門フィールドに広げ、従来の介護福祉士、保育士、栄養士の養成課程も含め、これまで以上にキャリア教育に力を注ぐ総合学科に生まれ変わりました。

佐野短期大学は開学以来、地域の教育に奉仕するとともに、地域社会のための有為な人材を育成し、適所に送り出すことを教育目標のひとつとしてきました。この学園に集う学生には、専門の職業人として、また自立した社会人として地域に貢献のできる、そして社会からも認められる存在になることを求めています。本学は学生に知識を授けるだけでなく、知識を実際に運用する技能を会得させ、さらに技能をみがくだけでなく、人間をみがくことにも力を注いでいます。在学中の 2 年間にわたる必修キャリア教育を重視し、みなさんがたんに 2 年後の就職だけを目指すのではなく、これからの長い人生における様々な場面で、役に立つ能力や必要な能力を身につけられるように導きます。実社会で問われる人間形成をキャリア教育の根幹とし、自ら考え、行動し、協調と思いやりのできる人材を社会に送り出すことが本学の最も重要な教育目標です。

みなさんにとって、短大の 2 年間は学ぶべきこと、覚えるべきことがあまりにも多く感じられると思います。これからの 2 年間は生涯で最も集中して、充実した学習期間となるはずです。みなさんの先輩たちはみなそれぞれ身につけるべき、知識の吸収、技能の習得に励み、それぞれの領域における専門の職業人として本学を巣立って行きました。私たち教職員は、みなさんが在学中に、あるいは卒業後に、この学校に入学してよかった、この先生の教えを受けてよかった、と感じられるように、一丸となって力を尽くします。

最も大切なことは、この 2 年間の短大生活で、自分が生涯、楽しく取り組めること、また自分が得意に出来ることを見つけ、社会に出てからもそれらを支えに、明るく、有意義な人生を歩めるように、学業や諸活動に打ち込むことです。みなさんが第 1 期生となる「総合キャリア教育学科」は、みなさんのそのような志を伸ばし、高めることのできる仕組みを用意しています。

人 事

() は前任

〔新規採用〕 < H22.4.1 >

特任講師	新井 充春		
兼任講師	山本 朋子	大高 仁子	
	山崎 好一	渡部 裕美	
	神長 学	岡 正巳	
	井上 益慶	佐藤 文江	
	古川 貴子	小山 茂夫	
	田中 雅子		
兼任助手	宮山 優佳		
総務課	小川 雅世		
図書館事務室	中島さとみ		

〔任用換え〕 < H22.4.1 >

特任教授	山田 昇 (教授)
	阿部 芳子 (兼任講師)
特任准教授	堤 裕美子 (兼任講師)

〔昇 格〕 < H22.4.1 >

教 授	小柳津 周 (准教授)
	立川 聡子 (准教授)
	佐々木俊郎 (准教授)
准 教 授	松崎 勇人 (講師)
	秋山真奈美 (講師)
	新井 文子 (講師)
事務長兼総務・学務課長	
	岸 洋一郎 (学務課長)
管理室主任	尾花 勝 (管理室)

〔異 動〕 < H22.4.1 >

法人事務室 事務長	乙守 貴正
	(事務長兼総務課長)

〔配置転換〕 < H22.4.1 >

進路指導課長	長 充男 (図書館事務長)
--------	---------------

〔退 職〕 < H22.3.31 >

講 師	橘 由美	
特任教授	金子 節也	
特任准教授	石川由利子	
兼任講師	寺内 正毅	松岡千恵子
	大木 潤子	稲垣謙次郎
	松本 安司	金子 利雄
兼任助手	宇賀神 恵	
進路指導課長	渡邊 貞彦	

平成 22 年度 各種委員会委員長

常置委員会

学務委員会	古川	慎一
進路指導委員会	長江	庸泰
入試管理委員会	稲見	崇司
図書学術委員会	大室	精一
広報企画委員会	藤原	保利

特別委員会

F D 委員会	輿水	優
自己点検評価委員会	大室	精一
教職課程委員会	藤原	保利
第三者評価委員会	大室	精一

臨時委員会

危機管理委員会	輿水	優
施設整備委員会	前澤	典明
キャリア教育委員会	古川	慎一

セクハラ相談員

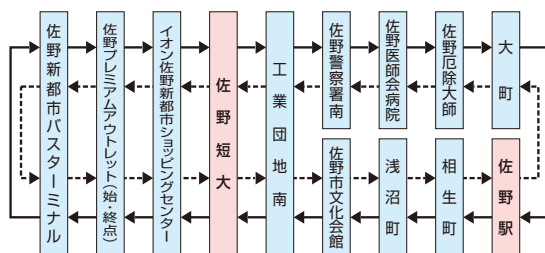
下記の教職員が相談に応じます。相談の内容については秘密を守り、相談者の不利益にならないよう十分に配慮します。お気軽にご相談ください。

輿水 優、ジョン・デリー、稲見 崇司
立川 聡子、和田 晴美、森 千佐子
秋山真奈美、高橋登美子、高木 道代
藤田 睦、堤崎 真里、山口 宮子



佐野万葉浪漫バス時刻表

平成22年3月13日改正



【佐野駅】発車予定時刻表

右回り→	時刻	左回り←	時刻
平日	土・日・祝	平日	土・日・祝
57	—	7	—
15.36	(36)	8	—
59	59	9	06 06
44	44	10	13.59 13.59
29	29	11	—
30	37	12	02 02
15	15	13	03.40 03.40
21	21	14	—
18	18	15	05.44 05.34
25	25	16	42 42
23	23	17	45 45
—	—	18	19 19
—	—	19	—
—	—	20	—

【佐野短大】通過予定時刻表

右回り→	時刻	左回り←	時刻
平日	土・日・祝	平日	土・日・祝
—	—	7	—
—	—	8	49 49
41	41	9	53 53
23	23	10	39 39
08	08	11	42 42
13.58	20.58	12	41 41
—	—	13	23 23
00	00	14	41 41
01	01	15	23 13
04	04	16	25 23
01	01	17	28.58 28.58
—	—	18	駅09.駅34 駅09.駅34
—	—	19	駅09 駅09
—	—	20	駅26 駅26

()は、土曜日のみ運行 駅印は佐野駅止まり
お問合せ：関東自動車 佐野営業所 TEL.0283-22-5311

静和カレッジバス時刻予定表

	東武日光線 静和駅発	大学発
月～金	8 : 32	10 : 45
	10 : 00	12 : 15
	11 : 30	13 : 30
	12 : 35	14 : 40
	14 : 00	16 : 10
	15 : 15	17 : 50

※ 土曜日は連休となります。
※ 6時限目の帰りは「佐野万葉浪漫バス」と、JR 線経由で帰宅するようにお願いします。

授業時間

時 限	開 始	終 了
1	9 : 00	10 : 30
2	10 : 40	12 : 10
昼休み	12 : 10	12 : 50
3	12 : 50	14 : 20
4	14 : 30	16 : 00
5	16 : 10	17 : 40
(6)	17 : 50	19 : 20

※ なお、夏季・春季の休み中に、集中授業や実習が行われます。

学報編集委員

國分三郎、立川聡子、大熊信成、和田晴美、
新井文子、山内健次、松崎勇人、小柳津周、
山崎敬子、大橋義成、齋藤 彩、森田拓男